

ペットの様子がちょっと変だなと思ったとき、動物病院に連れて行くのをためらってしまう理由の一つが医療費ではないでしょうか。同じ治療を受けても病院によって金額が違い、お金がいくら必要なのかよく分からないという不安があります。これは、独占禁止法で、獣医師会などが基準料金を決めたり、獣医師同士が協定して料金を設定したりすることが禁じられているためです。現状では、他の商業と同様に獣医師は各自が料金を設定し、競争できる体制が求められているのです。

また、人の場合は公的健康保険制度により、通常3割の医療費負担で済んでいます。しかし、ペットにはこうした

意外とかかる医療費

あんしんペットライフ
⑧

制度がないため、医療費は全額飼い主の自己負担となり、高額に感じられます。

アニコムアンケートによると、年間でかかる医療費は犬で7万4506円、猫で4万5712円でした。約13年の寿命をまっとうしたとして、一生のうちに犬で100万円近く、猫では60万円近く必要となる計算です。最近は大切なペットの健康のため、十分な治療を望む飼い主も増えており、医療の高度化とともに医療費も高額になっています。

そこで、医療費に対する備えの一つとしてペット保険も

充実してきています。人の健康保険のようにペット保険に加入しておけば不慮の事故などにも対応でき、安心です。現在、10社がペット保険の取り扱いをしており、それぞれ補償範囲や保険料、加入できる動物の種類、年齢などが異なります。また、かかりつけの動物病院で使うことができるのかどうかなど使い勝手も選択のポイントとなります。

ペットは人よりも成長スピードが速いためシニアとなるのが早く、病気の進行も早いです。いずれ必要となる医療費、いざというときに迷わず受診できるよう健康なうちから備えておきたいものです。

(アニコム損保
獣医師 井上舞)